

令和 6 年度
海 外 研 修 事 業

令和 6 年 12 月
公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団

目 次

I. 令和 6 年度海外研修事業……………P.1

<海外研修事業>

- (1) 令和 6 年度 海外研修の実施概要…………… P.2
- (2) 令和 6 年度 個別研修プログラム…………… P.3～7
- (3) 令和 6 年度 海外研修報告会の実施…………… P.8

II. 資料編 (昭和 45 年～令和 6 年)

<海外研修事業>

- (1) 海外研修生 合同研修・個別研修実施実績 …… P.9～10
- (2) 海外研修生 個別研修訪問国実績…………… P.11～12
- (3) 海外研修生 所属施設種類別・職種別人員実績…………… P.13
- (4) 海外研修生 応募者・合格者数…………… P.14～15
- (5) 海外研修生 府県別参加者数…………… P.16

I. 令和6年度 海外研修事業

【海外研修事業】

諸外国の福祉施設等における実習を通じて、専門的な知識・技能を習得し、我が国の社会福祉サービスの向上に資することを目的に、民間社会福祉施設等の直接処遇職員を募集（第50回生2023年5.1～7.31）、選考審査（一次審査8月、二次審査9月）を経て4名を選抜、デンマークにおいて5日間の合同研修を修了後、約2か月間にわたる個別研修を実施。

＜海外研修応募書類＞

- ①応募調書
- ②履歴書
- ③研修テーマ
- ④所属施設長の推薦書
- ⑤英検・TOEIC等の成績証明書保有者はその写し
- ⑥施設のパンフレット

＜応募資格＞

- ①民間社会福祉施設等に勤務する直接処遇職員
- ②25歳以上55歳以下の者
- ③社会福祉施設における業務経験が通算5年以上及び引続き福祉業務を続ける意欲のある者
- ④日常英会話能力を有する者

(1) 令和 6 年度 （第 50 回） 海外研修の実施概要

1. 合同研修期間：令和 6 年 4 月 22 日（月）～ 4 月 26 日（金）

合同研修の実施先である、デンマークのノーフュンスホイスコーレ（国民高等学校）にて、4 月 22 日から 4 月 26 日の 5 日間合同研修を実施、合同研修修了後から各自個別研修をスタート。

2. 研修生（4 名）

<第 50 回生>

①正垣 幸一郎（東京都 在職年数：30 年）

所属・職種：社会福祉法人新生寿会 管理者・ケアマネージャー
研修テーマ：新規事業をよりよくするため海外の高齢者ケアの現状を知る
個別研修期間：令和 6 年 4 月 27 日～6 月 19 日
個別研修国：スウェーデン、ドイツ、フランス、アメリカ

②坂田 猛（福岡県 在職年数：19 年）

所属・職種：久留米市訪問リハビリテーション 理学療法士
研修テーマ：自己決定を尊重する在宅支援と福祉機器について学ぶ
個別研修期間：令和 6 年 4 月 27 日～5 月 20 日
個別研修国：デンマーク、カナダ、アメリカ

③今野 直子（東京都 在職年数：12 年）

所属・職種：社会福祉法人基督教児童福祉会 臨床心理士
研修テーマ：欧米での子どもへのケアを学ぶ
個別研修期間：令和 6 年 4 月 27 日～6 月 23 日
個別研修国：イギリス、アメリカ

④竹島 隆二（奈良県 在職年数：18 年）

所属・職種：社会福祉法人飛鳥学院 児童指導員
研修テーマ：家庭的な養育とは何か
個別研修期間：令和 5 年 4 月 27 日～6 月 21 日
個別研修国：デンマーク、ドイツ、オランダ、イギリス、アメリカ

(2) 研修プログラム(概要)

氏名	正垣 幸一郎					
所属	社会福祉法人 新生寿会 特別養護老人ホーム ありすの杜きのこ南麻布 フロア管理者・ケアマネージャー					
合同研修	デンマーク ノーフェンスホイスコーレ(4/22～4/26)					
月	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
4月～5月	スウェーデン	4/29～5/20	Hattstugan/Gotland	グループホーム	福祉先進国であるスウェーデンで認知症グループホームでどのようなケアが行われているのかを知る。	この施設での研修は大変大きな成果があった。当法人がユニットケア、グループホームケアを行うきっかけとなった施設である。当法人で行なっているケアとほとんど変わりがなかった。しかし本人の意思を尊重する部分においてとてもよく考えてケアが行われている。当施設においても「誰にとって」「何のために」そのケアを行うのかをその都度考えていくことができるようにしていく必要がある。
5月		5/15	Stiftelsen Silviahemmet/Drottningholm	デイケアセンター	スウェーデン王立シルビアヘメット財団で行われている認知症デイケアセンターの視察とその財団が行なっている事業とコンセプトを知る。	この財団のコンセプトを知ることができた。見学当日にカナダの大学生と一緒に見学した。この財団のコンセプトのベースになっているのがパーソンセンタードケアである。4つの基本の柱がある。そのどれもが当法人の理念とほぼ同じであった。当法人が目指しているものは世界の中でも福祉先進国であるスウェーデンと遜色ないものであることを知ることができたことはとても価値のあることだった。
		5/21～5/23	Gotheburg	認知症ケア学会	スウェーデン認知症ケア学会に参加し、スウェーデンが取り組んでいる現状の課題は何なのかを知る。	スウェーデンの認知症ケア学会に参加して感じたことは、日本と同じように若年性アルツハイマー型認知症の方が増えていることがわかった。しかし、取り組みとしては認知症を予防するという視点での発表が多かったように感じた。日本での主流とは異なる考え方だと感じた。もしかしたら日本の認知症ケアの考え方の方が先進的なものかもしれないと感じた。
5月	ドイツ	5/23～5/30	Christophorus-Hospiz/Mainz ボランティア養成講座	ホスピス オンライン	ドイツのホスピス事情を知る。日本とドイツで行われている現状を知り、ドイツと日本は何が違うのか？また、ボランティアはどのようなことができるのかを知る。	ホスピスの考え方が日本とは全くといっていいほど違っていた。日本のホスピスは医療が中心で緩和医療という考え方だが、ドイツでは医療を受けたくない人が利用するのがホスピスである。医療を受けたくはないが痛み、苦しみは取り除いて欲しい。人間らしい生き方を望む人が利用している。2026年に新規施設開設時には看護小規模多機能型居宅介護を運営する私にとって良い機会となった。日本でも医療を望まない人はたくさんいるが、本人の意向というよりは家族の意向を中心に迷惑をかけないようなケアという理由で医療に依存してしまう傾向があるように感じる。当法人の施設からでも医療を望まない人が本人の希望に沿った人間らしい最期を迎えることができるよう本人、支援者とディスカッションしていく必要がある。

月	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
6月	フランス	5/30 ～ 6/13	Village Landais Alzheimer / Dax VRF/Touraine	アルツ ハイマー村 レスパイト ステイ施設	世界で2番目にできたアルツ ハイマー村で何がどのように 行われているのかを知る。 日本では聞いたことがないレ スパイトステイ施設で何が 行われているのかを知る。	アルツハイマー病を持っている人が120 名近く住んでいる。ここではボラン ティアの方々がたくさんお買い物のお 手伝いをしていた。日本の施設では何 かを披露するようなボランティアばかり が目立つ。生活を支えるようなボラ ンティアの方々が増えるような仕組 みを社協とともに考えていくことがで きると思う。生活援助の専門的なボラ ンティアを養成する講座を設けてみるの も良いかもしれない。 私は日本でレスパイトステイ施設とい う存在を知らない。レスパイトといえ ば高齢者をショートステイなどに預け て家族が休養するためだけのものに なっているように思う。しかしフランス では家族と一緒に休養できる施設が 存在する。家族とともに過ごしなが らお互いが休養できる施設があるのは とても良いように感じた。2026年に開設 する施設でも家族も泊まれるような仕 組みが作れるよう行政とともに考えて みる。
6月	アメリ カ	6/13 ～ 6/19	Paradise Memorial Crematory / Arizona	(墓地)	「死ぬ瞬間」の著者でありホ スピスケアの先駆者であるエ リザベスキュブラーロス博士 の墓地を訪れ、晩年のケアを していた人に当時のことを教 えてもらう。	「死ぬ瞬間」の著者エリザベス・キュ ブラーロス博士の墓地を訪れ晩年をど のように過ごしたのかを当時ケアをし ていた人から聞くことができた。ホス ピスケアの先駆者が自身の死を目の前 にした時どのようなこと感じ最後の瞬 間を生きていたのかを知ることができ た。 死と向き合う私たちの仕事では最後の 最後に本人がどのように生きたいのか を話せるような関わりができるようス タッフに伝えていくことが重要である と感じる。
計	59	日	訪問国 5カ国 訪問施設 8カ所			

氏名	坂田 猛					
所属	久留米市訪問リハビリテーション 理学療法士					
合同研修	デンマーク ノーフュンスホイスコーレ(4/22～4/26)					
	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
4月	デン マ ー ク	4/27 ～ 5/4	ノーフュンスホイスコーレ/ボーゲンセ	フォルケホイスコーレ	SOSU-福祉・教育-の科目に参加し、キーワードの「サステナブルな「人」と社会」、「対等な関係づくり」、「「人間とは」ホリスティックな人間観」、「リフレクションを通し自分づくり」を学ぶ。	四つのキーワード以外にも、コミュニケーションの大事さや、指導方法の工夫、リフレクションの必要性、ワークショップによる自己知覚と他者理解の重要性、哲学の重要さなどを学んだ。
5月			難病患者のご自宅/オーデンセ(4/29)	個人宅	障害を持ってある方の在宅生活をご自宅にお伺いして見学や対話を通じて実情を知る。	ノーマライゼーションの考え方を体現された生活を見学させていただき、支援する側・される側が本質的平等に基づいた姿勢や考え方で、対話を重視し、本人の意見を尊重した在宅支援と福祉機器選定が行われていた。また、これを支える社会福祉システムが充実していた。
			福祉用具センター・ショールーム/オーデンセ(5/2)	福祉用具センター	デンマークのオーデンセコミュニティの福祉用具貸与の状況や考え方、福祉機器の種類を見学する。	多種多様な生活場面に対応できる福祉用具があり、迅速な対応が必要な患者や本施設を訪れた家族等の相談を受けつけている。地域への情報発信の機会を作る努力もされていた。
		5/6	Elsass Fonden/コペンハーゲン	脳性麻痺の研究センター	脳性麻痺の研究所を訪問し、施設や研究などを見学する。	施設の案内や研究のためのデータ収集の様子、福祉用具の開発の状況を見学させていただいた。
		5/7	V Guldmann A/S / オーフス	リフトの企業	デンマークの世界的著名なリフトの企業で、デザイン・製作をどのような考え方で行われて、どんな種類があるのかを見学する。	介助者に徹底的に抱えさせないための考え方、リフトの重要性、リフト使用の方法、工場でのスタッフの作業、機器の種類などを見学させていただいた。日本で在宅生活のリフト導入はデンマークに比して低い状況であるが、数少ない導入施設や在宅においてもここまで徹底した抱えないという考え方、使用方法はない。
		5/8	Pressalit A/S / Ry	キッチンとサニタリーの企業	デンマークのトイレ環境を中心に注力されている企業。デザイン・製作をどのような考え方で行われ、どのような種類があるのかを見学する。	様々なことからインスパイアされたデザインのトイレを何種類も考案されていた。また、遊び心と実用性を兼ね備えたものが多かった。合理的で柔軟な対応が出来る手すりなどの製品は、自分の知らないものばかりで、患者宅や施設に導入すると重宝するものばかりだった。
		カナダ	5/13	KITE Research Institute と UHN Toronto Rehabilitation Lyndhurst/ Toronto	研究所・病院	カナダのトロントのリハビリテーション大規模研究施設の KITE Research Institute と 脊髄損傷センターの UHN Toronto Rehabilitation Lyndhurstで訓練・研究・環境の見学をする。
アメリカ		5/16	Los Altos High School/ San Francisco	高等学校	アメリカの高校における障害を持たれている方の教育環境を見学する。スポーツトレーナーの指導方法を見学する。	高等学校内の環境として、電動車椅子が走行できるようなスロープ、トイレ、教室、エレベーターを見学した。緊急事態の避難方法の準備として、階段を降りる補助器具があり、学生同士協力する準備をしているとのこと。スポーツトレーナーの指導現場では、不具合がある動作に対してのアプローチを見せていただき、自分の仕事と似ている考え方を学んだ。
計30日			訪問国 3カ国 訪問施設 8カ所			

氏名	今野 直子					
所属	(福) 基督教児童福祉会 バット博士記念ホーム 臨床心理士					
合同研修	デンマーク ノーフュンスホイスコーレ(4/22～4/26)					
	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
4月	イギリス	4/29 ～ 6/6	Tavistock Clinic/ London	心理研修所	精神力動の観点からの、子どもへの心理支援及び専門家養成課程を学ぶ。養育者支援のプログラム及び、臨床家養成コース陪席。	イギリスの精神分析を背景とした臨床実践の訓練の一端を学んだ。力動的な知見や視点を、いかにして臨床実践に活用していくかを学んだ。
5月			Maudsley Learning/ London	医療研修所	メンタルヘルスシミュレーション会議に参加。精神科領域の訓練の最前線を学ぶ。	臨床教育の場でも、トラウマセンシティブで、支援者の傷つきに配慮されていた。実際の現場でなく、トレーニングの場でも配慮を行うという点で、施設内研修などのあり方にも活用していきたい。
			Queen's College/ London	私立学校	ロンドン市内の私立一貫校での心理支援の実際を見学。施設見学、専門家からのレクチャーを受ける。	心理職がいるから心理支援を行っているのではなく、組織として子どもの心的発達を促進し、心身の健康を守ろうという全人的なアプローチを学んだ。心理職が個別のケアをやるだけでなく、組織全体で、子どもの健康と発達を育むシステムが必要だと学んだ。
			Abercorn School/ London	私立学校		
			Mulberry Bush School/ Standlake	児童治療施設	トラウマを持つ子どもたちの為の入所施設で、集中的治療的ケアを学ぶ。施設見学・実習、また専門職からのレクチャーを受ける。	トラウマを持つ子どもたちへの支援方法全般を見させていただく機会となった。情緒発達の促進と職員自身の感情コントロールは密接に繋がっていて、職員は内省の機会を多く持っていた。システムとして、内省の機会があることは有用であると感じた。
			Kibble/ Glasgow	児童青少年支援施設	トラウマを持つ子どもたちの為の入所施設及び青年収容施設で、社会的養護の子どもたちのケアを学ぶ。施設の見学、及び専門職からのレクチャーを受ける。	手厚い心理ケアが行われていて、一人の子どもが個別の心理療法と家族との家族療法を受けるケースもあった。家族支援に心理職がより貢献できる可能性が示唆された。
			CELCIS/ Glasgow	児童青少年支援組織	スコットランドの社会的養護の実践を学ぶ。施設見学及び専門職からのレクチャーを受ける。集中的ケア及び、ソーシャルペダゴジーを基にした全人的ケアの実践を学ぶ。	ソーシャルペダゴジーとは、人とは何かという哲学を基にした、人の育ちの理論と実践であるということを学んだ。特定の手法やプログラムを導入して、改善や発達を図るのではなく、子どもの育ちとは何かを施設全体で考え続けたいと勇気づけられた。
6月			アメリカ	Anna Freud/ London	心理研修所	親子のメンタライゼーション機能を強化する内省的な子育てについての集中講座を受講。子育てにおけるメンタライゼーション、内省について講義やロールプレイ、ディスカッションを通じて学ぶ。
	Evergreen Psychotherapy Center/ Evergreen	心理治療施設		トラウマを持っている子どもと家族への治療法である、修復的愛着療法について2週間の集中トレーニングを受講。実際の治療の陪席を通して、理論、アセスメント、介入方法を学ぶ。	集中的トラウマケアの研修を通して、クライエントの傷つきをどう扱うかの一つの形を学んだ。子どもたちの傷に触れることへの恐怖が薄れた。効果的な心理ケアについて、より積極的に取り入れたいと考えている。	
計 62 日			訪問国 3カ国 訪問施設 10カ所			

氏名	竹島 隆二					
所属	社会福祉法人飛鳥学院 児童養護施設飛鳥学院 児童指導員					
合同研修	デンマーク ノーフュンスホイスコーレ(4/22～4/26)					
	国	期間	施設名/都市名	施設の種類	研修内容	研修成果と施設への活用・導入方法等
4月	デンマーク	4/27～5/10	Arild/コペンハーゲン	児童養護施設	デンマークにおける施設養育・教育について学ぶ。その中で、母子支援や在宅支援、プログラムの活用なども学び、チーム支援についても勉強する。	日本ではあまり活用されていないプログラムについて勉強、考え方やアセスメントの参考にする。また、特にチームケアについては管理職の意識改革から進めていく。
			Josephine Schneiders/コペンハーゲン			
5月	ドイツ	5/11～5/18	Opholdsstedet I Bogense/ボーゲンセ	青少年教育支援施設	課題が根深く、スペシャルなニーズが必要が青少年に対する支援について学ぶ。	子どもとの向き合い方。ボードゲームをもっともっと活用し子ども達のコミュニケーション能力の向上を図る。
			Baby Fenster/エッセン	赤ちゃんポスト	セフティーネットの最も困難な役割を担っていると考えられる団体に行き、ドイツにおける社会的養護の位置づけや、考え方について学ぶ。	直接、施設への処遇に対して活用できるというよりは、施設の職員だけでなく社会的養護に従事する者の意識改革に、役立つ。特に行政の考え方を変えられるようなアプローチをしていく。
	ドイツ	5/11～5/18	ドイツ国際平和村/オーバーハウゼン	人道支援団体		
			Haus St. Josef/デュレン	児童養護施設	ドイツにおける児童養護施設のケア及び社会的な位置付けを学ぶ。特に、Raphaelshausの私の実習ホームでは「気持ちの言語化」を徹底的に行い、グループを積極的に活用し、ソーシャルペタゴジーの実践を行っていた。	ドイツにおいて、児童養護施設は子育てにおいて積極的に利用できる短期的な教育施設という位置づけが大きいと感じたので、日本においても措置だけでなく、一方でこのような位置づけが必要だと強く感じる為、積極的に施設を利用できる体制を整える。
			Raphaelshaus/ドルマーゲン			
	オランダ	5/19～5/31	De Kindertelefoon/ユトレヒト	児童相談電話	相談内容について聞きオランダの子どもの現状を知ると共に、また相談対応の仕方などを学ぶ。	法人で児童家庭支援センターも運営しており休日夜間は児童養護で電話対応しているので、その業務にいかせるよう職員へ紹介していく。
Stichting Hoop Voor Morgen/アムステルダム			フードバンク	貧困家庭に対する支援について学ぶ。	直接的な処遇ではなく、施設の子どもや地域の子ども、家庭との向き合い方について考えさせられ、意識改革につなげたい。	
6月	スコットランド	6/1～6/15	Woodburn Court/ミッドロージアン Lady Brae/ミッドロージアン Nether Johnstone House/グラスゴー Harmeny School/ミッドロージアン Sycamore project/カーカルディ	児童養護施設	里親が中心となっている国の児童養護施設現場を知り、社会的養護に従事する者の考え方、分野全体での意識の共有化を学ぶ。その上で、実践におけるソーシャルペダゴジーについて学ぶ。	社会的養護に従事する者の県の研修事業を立案・実施する役割を担っているの、現状において方向性や一体感が不足している事を理解し、それを改善していく必要があるという研修を実施することを進める。ソーシャルペダゴジー理論が児童養護の現場実践の裏付けと自信となることを広め、現場の養育者の自信回復・地位向上へとつなげる。
	アメリカ	6/16～6/20	Kennedy Elementary School/サクラメント	公立の小学校	小学生への授業、クラス運営について学ぶ。	一方向から教えるのではなく、クラス全体(グループ)で互いに1つの事を学び合う意識を共有していく。
			Franklin High School/サクラメント	高校の里子支援先生	アメリカの里親制度及び、里子支援現状について学ぶ。	里親との連携、助け合いを強めていく。
			Sacramento Children's Home/サクラメント	児童養護施設	アメリカの児童養護施設において、たくさんのプログラムを活用して地域の家族も含めケアしていることを学ぶ。	家族支援やアセスメントに有効なプログラムを施設でも活用していき支援の幅や効率化を検討していく。
計 60 日			訪問国 5カ国 訪問施設 17カ所			

(3) 令和 6 年度 海外研修報告会の実施

1. 開催日時：令和 6 年 10 月 19 日(土) 14：00～17：00
2. 場 所：JRA 新橋分館会議室
3. 出席者：OB 会役員、財団役員、研修生 OB(Web、来場者) 計 36 名
4. 報告者：第 50 回 海外研修生 4 名
5. 研修報告

① 14：00 ～ 14：30 正垣 幸一郎（管理者・ケアマネージャー）

② 14：35 ～ 15：05 今野 直子（臨床心理士）

③ 15：10 ～ 15：40 坂田 猛（理学療法士）

④ 15：45 ～ 16：15 竹島 隆二（児童指導員）

16：30 ～ 17：00 《全般について質疑応答》

- ▶ 研修生の研修内容、研修成果、帰国後の活動等については、ホームページに
「令和 6 年度海外研修報告書集（第 50 回）」として掲載

II. 海外研修 資料編

(1) 海外研修 合同研修・個別研修実施実績 (昭和45年～令和6年)

年 度	(回 数)	研修生 (人)	合同研修		研修期間 (合同研修含)	個別研修期間
			日 程	研修地		
昭和45年	(第 1 回)	11	(合同研修は無)		3ヶ月 	

年 度 (回 数)		研修生 (人)	合同研修		研修期間 (合同研修含)	個別研修期間
			日 程	研修地		
平成 9年	(第 26 回)	5	4/4 ～ 4/18	デンマーク	2～4ヶ月以内 ↓	4/19～7/26
平成10年	(第 27 回)	7	4/11 ～ 4/24	ア メ リ カ		4/25～8/10
平成11年	(第 28 回)	6	4/9 ～ 4/23	ア メ リ カ		4/24～8/8
平成12年	(第 29 回)	8	4/1 ～ 4/14	デンマーク		4/15～7/31
平成13年	(第 30 回)	6	4/21 ～ 5/4	デンマーク		5/4～8/20
平成14年	(第 31 回)	6	4/12 ～ 4/26	ア メ リ カ		4/27～8/11
平成15年		中止 (イラク戦争)				
平成16年	(第 32 回)	6	4/9 ～ 4/23	ア メ リ カ	↓	4/24～8/8
平成17年	(第 33 回)	5	4/10 ～ 4/21	デンマーク		4/22～7/8
平成18年	(第 34 回)	5	4/17 ～ 4/27	デンマーク		4/28～7/16
平成19年	(第 35 回)	5	4/10 ～ 4/19	ア メ リ カ		4/20～7/9
平成20年	(第 36 回)	5	4/8 ～ 4/18	ア メ リ カ		4/19～7/9
平成21年	(第 37 回)	5	4/19 ～ 4/28	デンマーク		4/29～7/17
平成22年	(第 38 回)	5	4/27 ～ 5/2	デンマーク	↓	5/3～7/18
平成23年	(第 39 回)	4	4/12 ～ 4/21	ア メ リ カ	2～3ヶ月以内	4/22～7/10
平成24年	(第 40 回)	4	4/9 ～ 4/13	ア メ リ カ	3週間以上 2ヶ月以内 ↓	4/14～6/11
平成25年	(第 41 回)	4	4/15 ～ 4/19	デンマーク		4/20～6/14
平成26年	(第 42 回)	4	4/22 ～ 4/25	デンマーク		4/26～7/13
平成27年	(第 43 回)	4	4/6 ～ 4/10	ア メ リ カ		4/11～6/6
平成28年	(第 44 回)	2	4/11 ～ 4/15	ア メ リ カ		4/16～6/10
平成29年	(第 45 回)	2	4/24 ～ 4/28	デンマーク		4/29～6/24
平成30年	(第 46 回)	3	4/23 ～ 4/27	デンマーク		4/28～6/24
令和元年	(第 47 回)	3	4/22 ～ 4/26	ア メ リ カ	↓	4/27～6/19
令和 2年	(第 48 回)	3	コロナウイルス感染症の観点から研修を延期、R5年に実施 (令和3年度研修生募集を見合わせ)			
令和 3年		(令和4年度研修生募集を見合わせ)				
令和 4年		(令和5年度研修生募集再開)				
令和 5年	(第 49 回)	3	4/24 ～ 4/28	ア メ リ カ	3週間以上 2ヶ月以内	4/29～6/22
令和 6年	(第 50 回)	4	4/22 ～ 4/26	デンマーク	〃	4/27～6/23
計 332 人						

(2) 海外研修 個別研修訪問国実績 (昭和45年～令和6年)

区 分	ア メ リ カ	カ ナ ダ	イ ギ リ ス	フ ラ ン ス	(ド イ ツ ・ フ ラ ン ス)	ス イ ス	オ ー ス ト リ ア	イ タ リ ア	ス ペ イ ン	オ ラ ン ダ	ベル ギー	デン マ ーク	ス ウェ ー デン	ノ ル ウ ェ ー	フィン ランド	ア イル ランド	ポー ランド	ハン ガ リー	ユー ゴ ス ラ ビア	ポ ルト ガル	ブル ガ リア	オ ース トラ リア	ニュ ー ジ ー ラ ンド	イ ン ド	ベ ト ナ ム	タ イ	ス リ ラン カ	マ レー シア	イン ド ネ シア	ケ ニ ア	ス ロ ベ ニア	メ キシ コ ・ プ ラ ジ ル	ロ シ ア	韓 国	延 人 員	実 人 員	
昭和45年第 1回	5	0	4		2	2						3	3		2																					21	11
昭和46年第 2回	8	0	5	1	7			1		4		4	4		2																					36	15
昭和47年第 3回	7	1	15	6	12	6	3	4		9	1	15	8	3	1						1				2		1									95	17
昭和48年第 4回	7	0	7	3	6	5		2				5	3	1	2																					41	11
昭和49年第 5回	6	0	10	1	5	5	2			7	1	4	4	1	1																					47	13
昭和50年第 6回	6	2	7	2	1	2	1	2		8	1	6	2	1																						41	8
昭和51年第 7回	7	4	4		2	1		1	1	1		2		1																						24	7
昭和52年第 8回	8	2	5	1	3					1	1	4	1				1				1															28	8
昭和53年第 9回	3	1	4	1	2					1		2	2																							16	7
昭和54年第10回	4	2	5		5	2	1			2		5	1									1														28	10
昭和55年第11回	4	2	2	1	1	1							1		1																					13	5
昭和56年第12回	7	2	3	1	3	2		1				3	2	1								1														26	7
昭和57年第13回	3	1	3		3	2				1		1	1			1																				16	6
昭和58年第14回	7	2	4	1	3	3		1		1		2	1	1								1														27	8
昭和59年第15回	10	1	4	1	2					2		1	2																							23	11
昭和60年第16回	6	0	2		1					1			2		1																					13	6
昭和61年第17回	5	2	1		2	1	1			1		1			1			1																		16	6
昭和62年第18回	6	3	6	2	2	2		1	1	1		4	3	1	2																					34	7
昭和63年第19回	7	3	2		2	1				2		2	4						1												1					25	8
平成元年第20回	8	2	3	1		1						2	2																							19	8
平成 2年第21回	6	3	1	1	3		1					6	3	1	1							1					1									28	11
平成 4年第22回	7	2	6	1	2	1			1	1	1	5	4									1											1			33	9
平成 5年第23回	6	2	6		1	2				3		5			2							1	1												1	30	9
平成 6年第24回	4	0	2									2																								8	5
平成 8年第25回	2	0	2	1	1	1				2		4	1	1																						15	5
平成 9年第26回	3	0	3									2	2	1	1														1	1						14	5
平成10年第27回	6	3	4									4	1																							18	7
平成11年第28回	5	3	3	1								3	1	1																						17	6
平成12年第29回	6	2	2		2	1				1		2	1								1		1	1												20	8
平成13年第30回	2	1	3		1						1	1	3		1																	1				14	6
平成14年第31回	3	2	1	1	2						1	2	2									1														15	6
平成16年第32回	5	1	3					1		1	1	3	2									1														18	6
平成17年第33回	2	1	1		1							2	3										1													11	5
平成18年第34回	2	0	2		1							4	2																							11	5

区 分	アメリカ	カナダ	イギリス	フランス	(ドイツ)	スイス	オーストリア	イタリア	スペイン	オランダ	ベルギー	デンマーク	スウェーデン	ノルウェー	フィンランド	アイルランド	ポーランド	ハンガリー	ユーゴスラビア	ポルトガル	ブルガリア	オーストラリア	ニュージーランド	インド	ベトナム	タイ	スリランカ	マレーシア	インドネシア	ケニア	スロベニア	ブラジル	メキシコ・	ロシア	韓国	延 人 員	実 人 員			
平成19年第35回	4		1							1		2										1														9	5			
平成20年第36回	5	1	1									3	2										1													13	5			
平成21年第37回	1	4	2		1							3	2		1																					14	5			
平成22年第38回	4	1			1			1				4	1		1																				1	14	5			
平成23年第39回	4	1	3							1		2	1										1														13	4		
平成24年第40回	3		1		1				1			3																								1	10	4		
平成25年第41回			2	1	2					1	1	2	3		1							1															14	4		
平成26年第42回	1	2				2	1					2			1							2	1															12	4	
平成27年第43回	3	1	2				1								2								1	1														10	4	
平成28年第44回	2	1	1					1				2										1																8	2	
平成29年第45回	2	2	1		1							2																										8	2	
平成30年第46回	3	2			1								2									1	1															10	3	
令和元年 第47回	2		1		1		1			1		1			1	1																	1					10	3	
令和 2年 第48回	3		1	1	1					1		2			1											1													11	3
令和 5年 第49回	1				1							5	1																										8	3
令和 6年 第50回	4	1	2	1	2					1		2	1																										14	4
合 計	225	66	153	30	90	43	12	16	4	56	9	146	84	14	26	2	1	1	1	1	2	14	8	3	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2		1,019	332		

(3) 海外研修生 所属施設種類別・職種別人員実績（昭和45年～令和6年）

(施設種類別)

施設区分	研修生 (人)
身体障害者更生施設	21
身体障害者療護施設	3
身体障害者授産施設	14
視覚障害者情報提供施設 (点字図書館等)	11
知的障害者更生施設	25
知的障害者授産施設	10
知的障害者通勤寮	1
肢体不自由児施設	32
重症心身障害児施設	24
知的障害児施設	27
児童養護施設 (養護施設・虚弱児施設)	33
児童心理治療施設 (旧情緒障害児短期治療施設)	3
母子生活支援施設 (母子寮)	5
乳児院	5
保育所	27
盲ろうあ児施設	1
特別養護老人ホーム	50
養護老人ホーム	11
養護(盲)老人ホーム	3
軽費老人ホーム	4
老人デイ・サービスセンター	2
救護・更生施設	4
精神障害者小規模作業所	1
特定非営利活動法人(NPO)	5
その他	10
合 計	332

(職種別)

職種区分		研修生 (人)
指導員等	生活指導員	106
	職業(作業・訓練)指導員	6
	児童指導員	54
心理判定員		13
理学療法士 PT		30
作業療法士 OT		13
言語聴覚士 ST		5
介護職員		12
保育士		34
医師		14
看護師		9
その他の	歩行訓練士	2
	精神保健福祉士	1
	点字指導員	7
	栄養士	5
	相談員(カウンセラー)	5
	ケアマネージャー (介護支援相談員)	8
	コミュニティワーカー	4
	ケースワーカー	1
	ソーシャルワーカー	1
他		2
合 計		332

(4) 海外研修応募者・合格者数(S45～R6年度)

回	年 度	応 募 者 数 (人)			合格者数
		男	女	合 計	
1	昭和45年	10	5	15	11
2	昭和46年	32	7	39	15
3	昭和47年	25	5	30	17
4	昭和48年	20	11	31	11
5	昭和49年	23	10	33	13
6	昭和50年	17	11	28	8
7	昭和51年	16	8	24	7
8	昭和52年	11	8	19	8
9	昭和53年	8	8	16	7
10	昭和54年	16	3	19	10
11	昭和55年	14	1	15	5
12	昭和56年	17	11	28	7
13	昭和57年	12	10	22	6
14	昭和58年	20	4	24	8
15	昭和59年	12	7	19	11
16	昭和60年	13	5	18	6
17	昭和61年	11	5	16	6
18	昭和62年	13	6	19	7
19	昭和63年	16	9	25	8
20	平成元年	9	8	17	8
21	平成02年	12	8	20	11
	平成03年	中止(湾岸戦争)			
22	平成04年	19	14	33	9
23	平成05年	9	15	24	9
24	平成06年	4	13	17	5
	平成07年	中止(諮問委員会の答申を受け研修のあり方再検討)			
25	平成08年	6	8	14	5
26	平成09年	15	4	19	5
27	平成10年	6	6	12	7
28	平成11年	4	8	12	6
29	平成12年	7	5	12	8
30	平成13年	4	9	13	6
31	平成14年	8	5	13	6
	平成15年	中止(イラク戦争)			
32	平成16年	3	10	13	6
33	平成17年	9	7	16	5
34	平成18年	5	5	10	5
35	平成19年	8	4	12	5
36	平成20年	2	7	9	5
37	平成21年	4	9	13	5
38	平成22年	7	7	14	5
39	平成23年	6	15	21	4
40	平成24年	2	5	7	4

回	年 度	応 募 者 数 (人)			合格者数
		男	女	合 計	
41	平成25年	2	8	10	4
42	平成26年	5	7	12	4
43	平成27年	2	8	10	4
44	平成28年	1	1	2	2
45	平成29年	1	6	7	2
46	平成30年	1	5	6	3
47	令和 1年	3	9	12	3
48	令和 2年	0	5	5	3
		・新型コロナウイルス感染症拡大により海外研修実施延期、R5に実施 ・令和3年度研修生募集見合わせ			
	令和 3年	・令和4年度研修生募集見合わせ			
	令和 4年	・令和5年度研修生募集再開			
49	令和 5年	3	8	11	3
50	令和 6年	5	5	10	4
合 計		478	368	546	332

(4) 海外研修生 府県別参加人数（昭和45年～令和6年）

県	人	政令市	人
北海道	6	札幌市	6
青森県	2	仙台市	
岩手県	2	さいたま市	
宮城県	2	千葉市	1
秋田県	2	横浜市	1
山形県	1	川崎市	1
福島県		相模原市	1
茨城県	1	新潟市	
栃木県	1	静岡市	
群馬県	5	浜松市	
埼玉県	16	名古屋市	2
千葉県	14	京都市	4
東京都	55	大阪市	25
神奈川県	19	堺市	2
新潟県	2	神戸市	10
富山県	2	岡山市	3
石川県	1	広島市	2
福井県	2	北九州市	9
山梨県	2	福岡市	3
長野県	1	熊本市	
岐阜県	2	計	70
静岡県	3	合計	332
愛知県	3		
三重県			
滋賀県			
京都府	3		
大阪府	25		
兵庫県	19		
奈良県	4		
和歌山県	5		
鳥取県	3		
島根県	3		
岡山県	11		
広島県	5		
山口県	1		
徳島県	1		
香川県	5		
愛媛県	1		
高知県	2		
福岡県	4		
佐賀県	7		
長崎県	2		
熊本県	2		
大分県	5		
宮崎県	2		
鹿児島県	3		
沖縄県	5		
計	262		